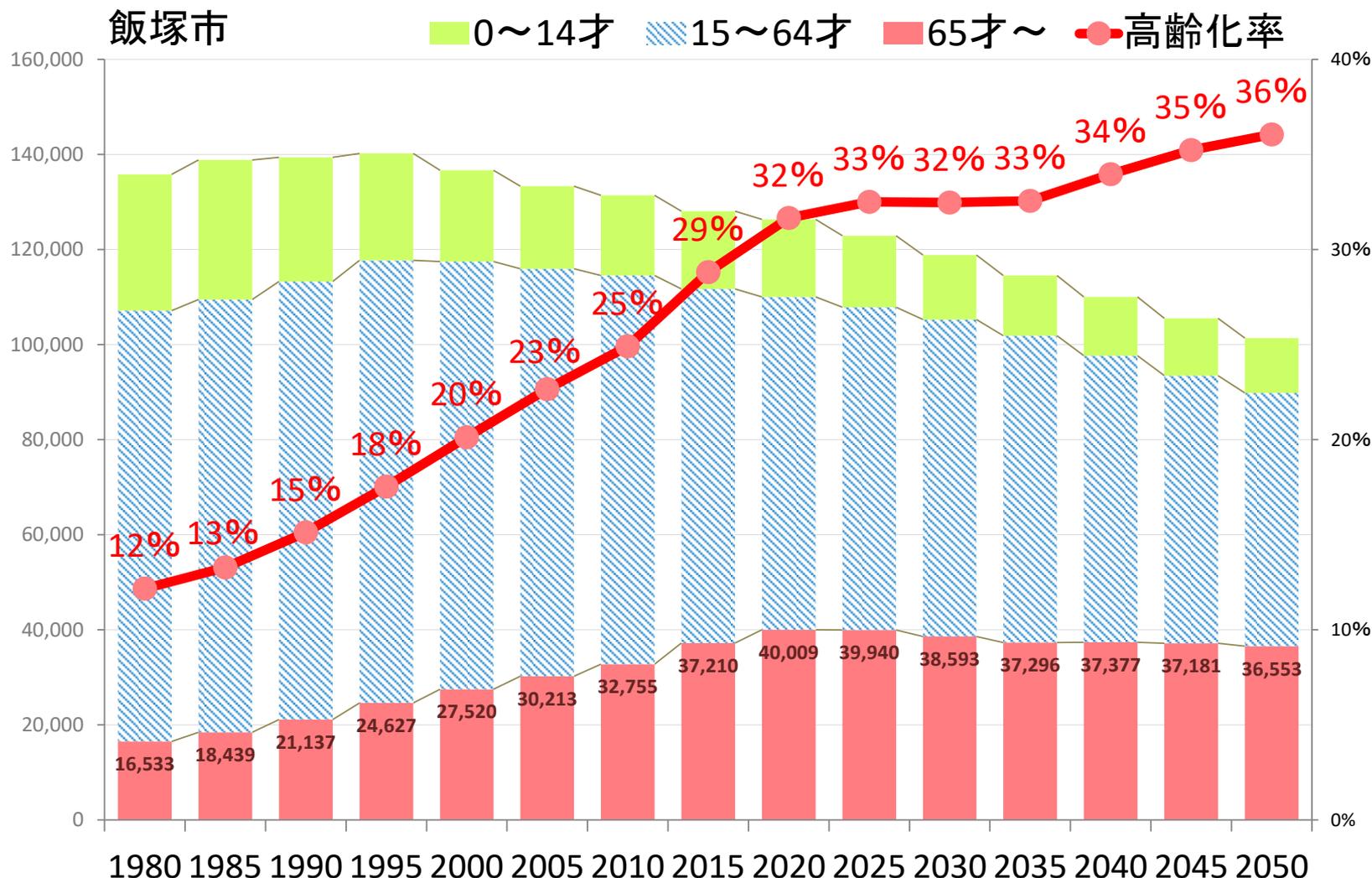


令和5年度
飯塚市高齢社会対策推進協議会
参考資料

株式会社 くまもと健康支援研究所

2035年から再び高齢化が進む

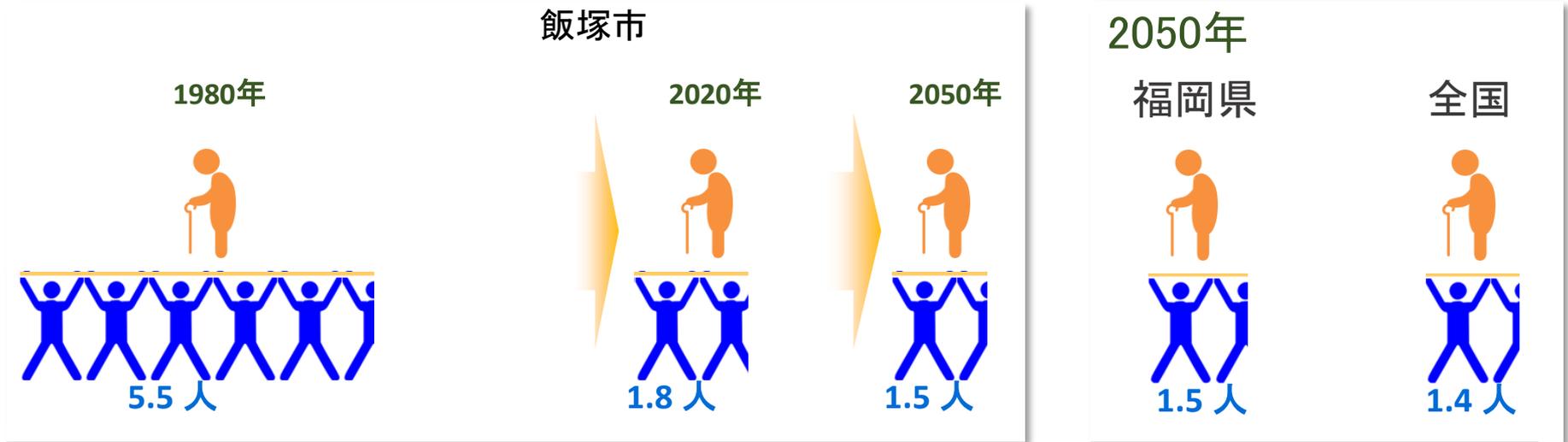
- ・ 昨年末（令和5年12月22日）に発表された人口問題研究所による人口推計によると、飯塚市の高齢化率は2020年時点まで大きく増加して来たが、今後しばらくは増加しない。しかし**2035年から再び増加に転じる**。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」のデータから作成

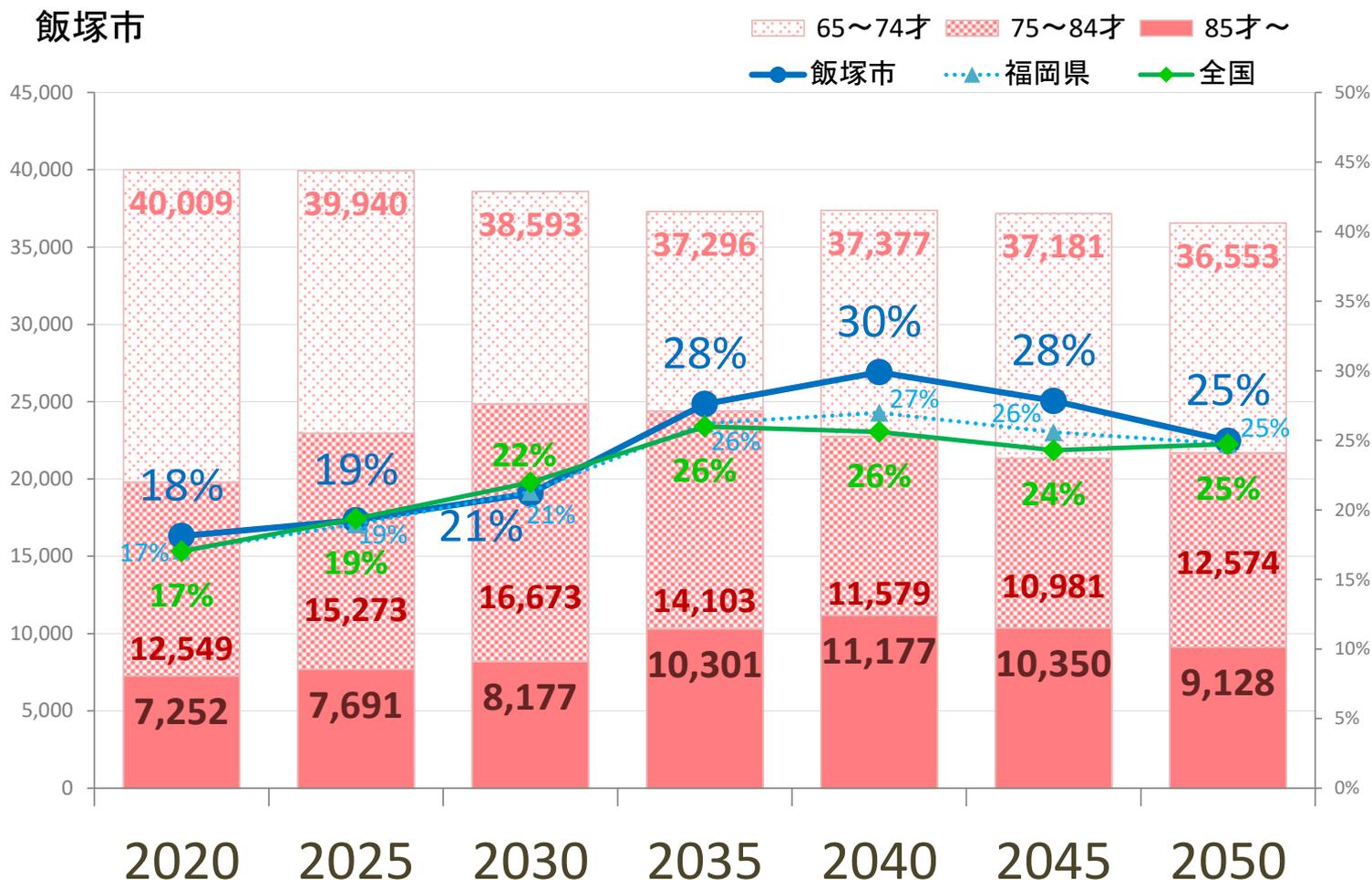
高齢者人口を支える生産年齢人口の割合の減少

- ・飯塚市における高齢者人口（65才以上）を支える生産年齢人口（15～64才）の割合は、1980年時点で5.5人であったが、2020年時点では1.8人となり、2050年時点では1.5人となると予測されている。
- ・同じ2050年時点で、全国は1.4人、福岡県は1.5人であり、飯塚市は県平均とほぼ同じである。
- ・介護人材不足は、全国共通の課題であるが、飯塚市においても深刻な問題となっていく可能性がある。



85才以上人口増加は、認定率の増加につながる

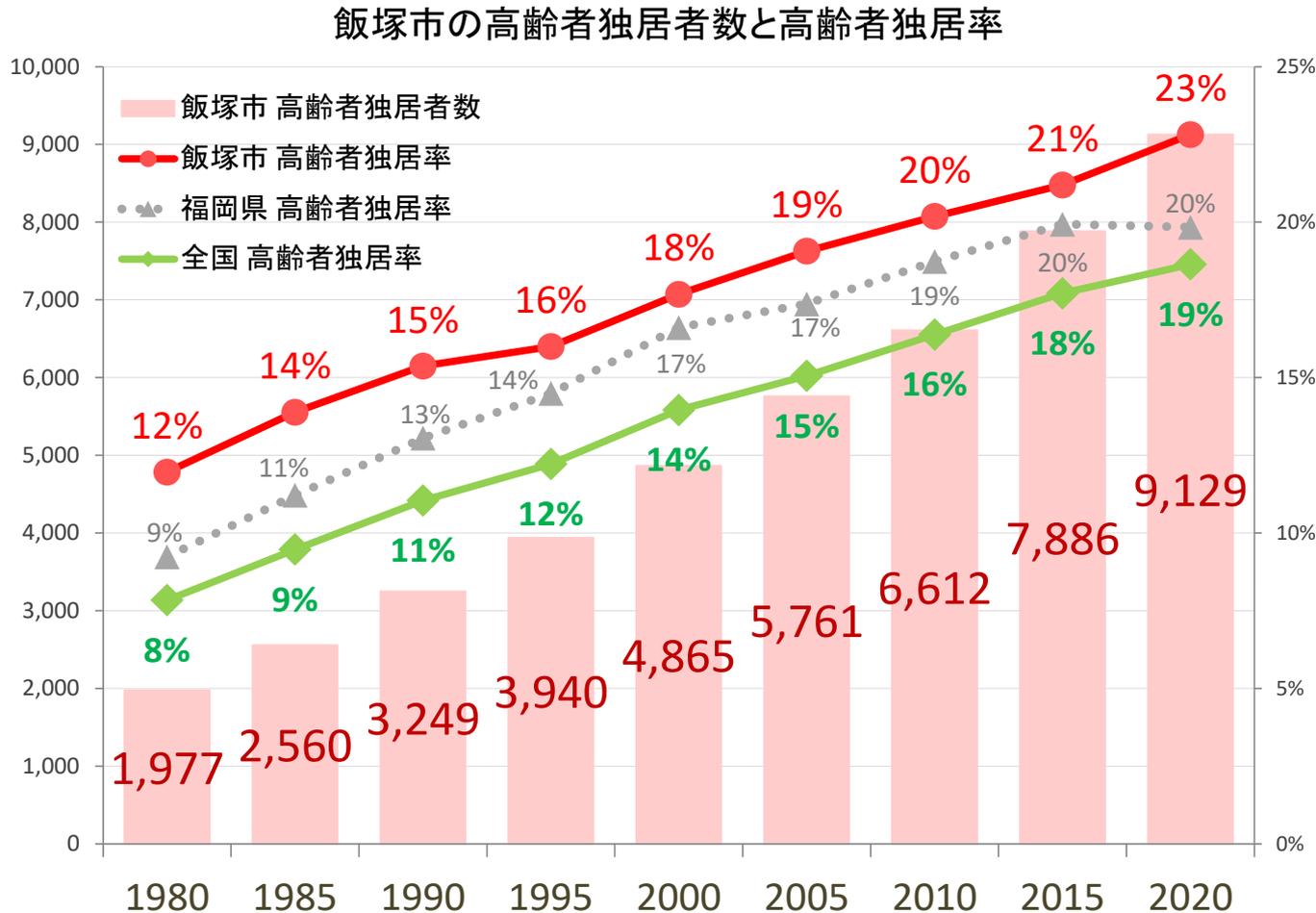
- ・ **85才以上人口の割合**は、これまで微増傾向だったが、2030年から2035年にかけて大きく増加する。
- ・ 85才以上での認定率が高いため、**85才以上人口の割合が多いと、認定率を強く押し上げる要因**となる。
- ・ また、地域活動の担い手の主体は高齢者であるため、**85才以上の割合が大きくなると、地域活動が停滞化する傾向**が一般的にみられる。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」のデータから作成

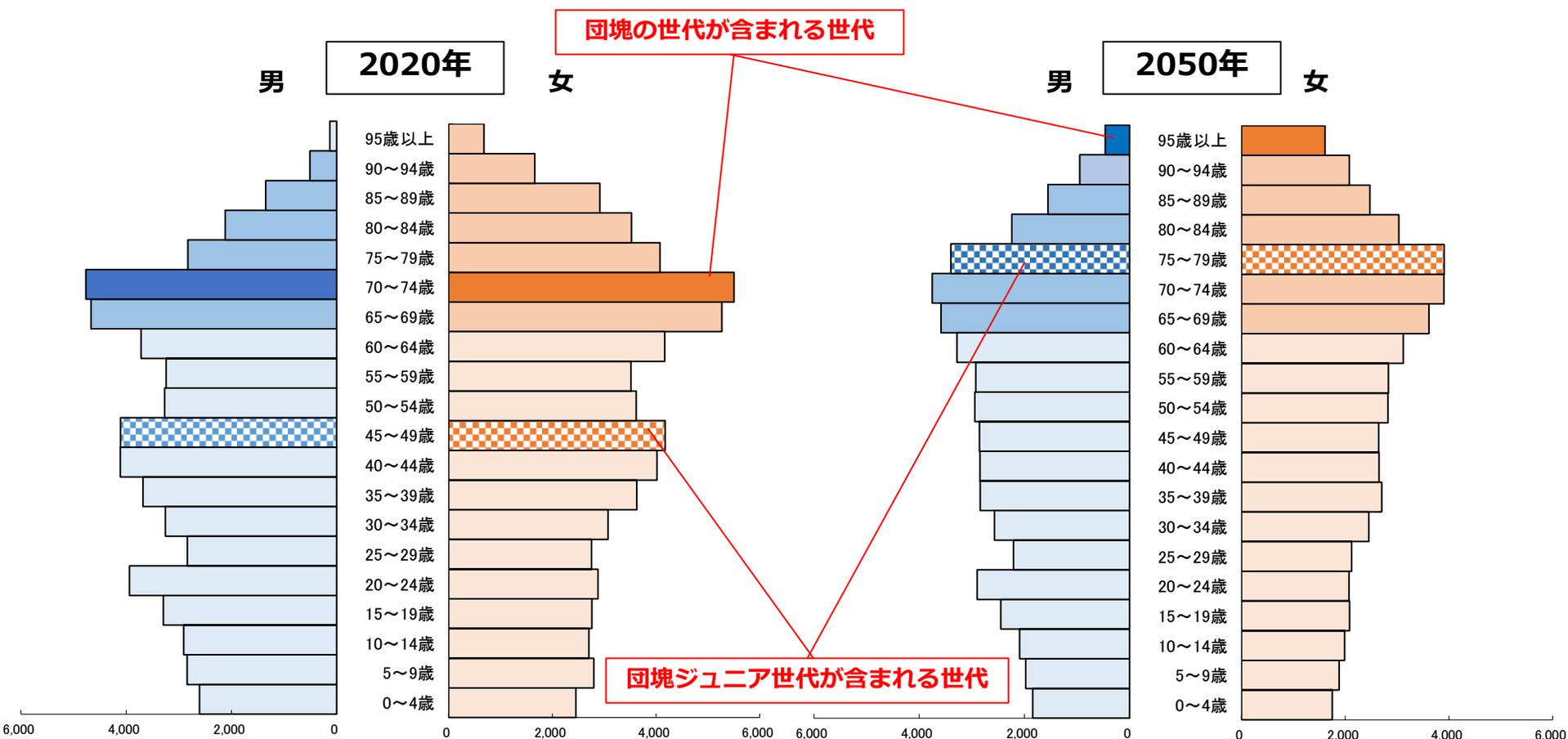
飯塚市の高齢者独居者は、約 1 万人

- ・飯塚市の高齢者独居率は、全国平均より4%前後大きいまま40年間直線的に増加して来た。
- ・高齢者独居率は、平均寿命が伸びれば、夫と死別した女性が増加するため、高齢化の宿命ともいえるものであるが、現在、飯塚市内の高齢者の約4分の1の1万人近い独居高齢者がおり、今後もさらに増加していくものと考えられる。



今は団塊の世代が後期高齢者に突入する時期

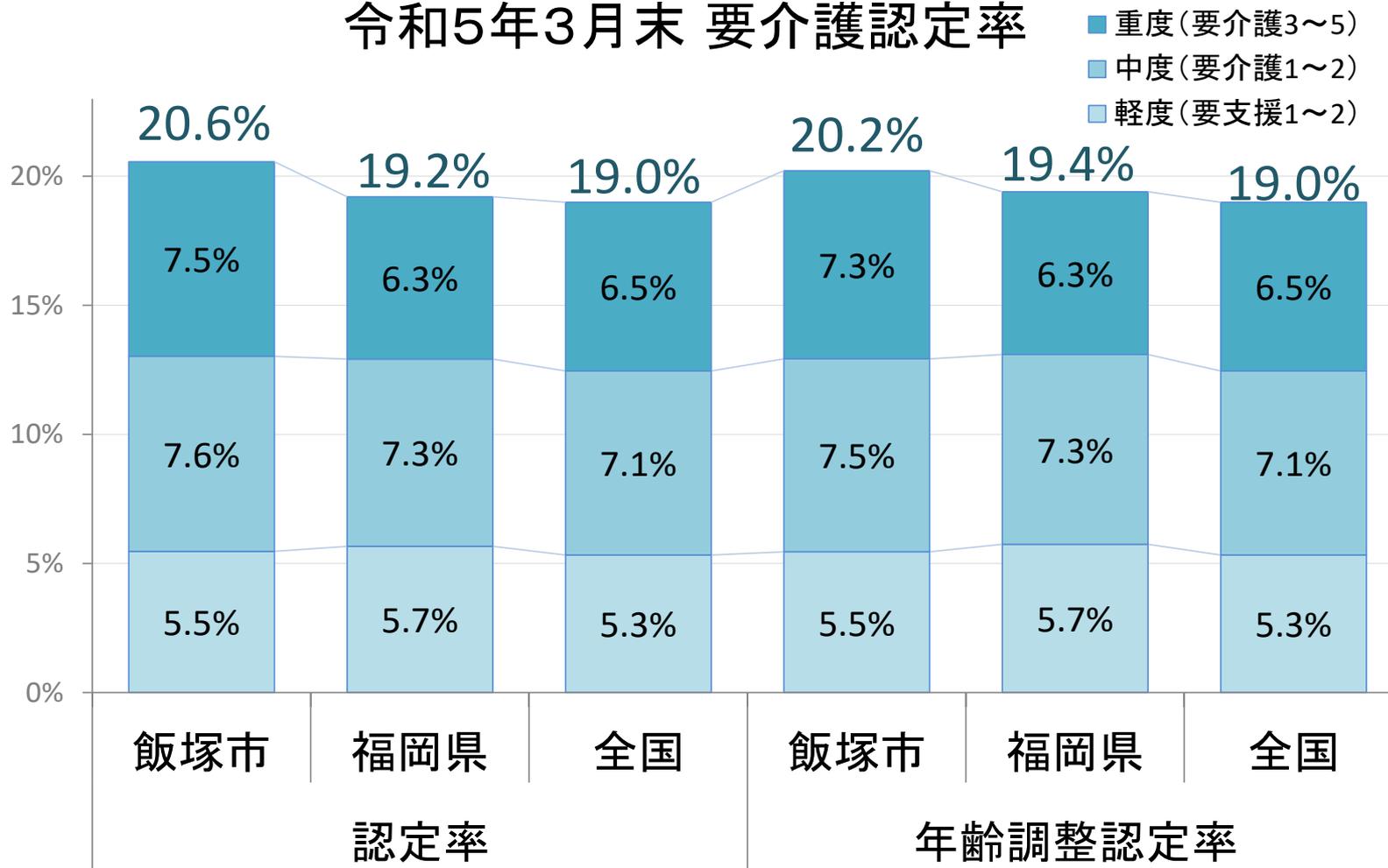
- ・ 2022年に団塊の世代が75才を超え、さらに加齢していくにしたがって、団塊の世代の認定者数は増えていく。
- ・ 団塊の世代は人口が多いため、市全体の認定者数も増加する。
- ・ 高齢者全体に占める団塊の世代の割合が大きいため、市全体の認定率も上昇する。



全国平均を上回る飯塚市の認定率

- ・令和5年（2023年）3月末時点での飯塚市の認定率は、全国平均や県平均を上回る。
- ・人口構造が全国と同じと仮定した**年齢調整認定率**でも、飯塚市は**全国平均や県平均を上回る**。
- ・飯塚市の認定率の高さは、**人口構造（人口ピラミッド）の影響だけでは説明できず、何らかの課題があるもの**と推測される。

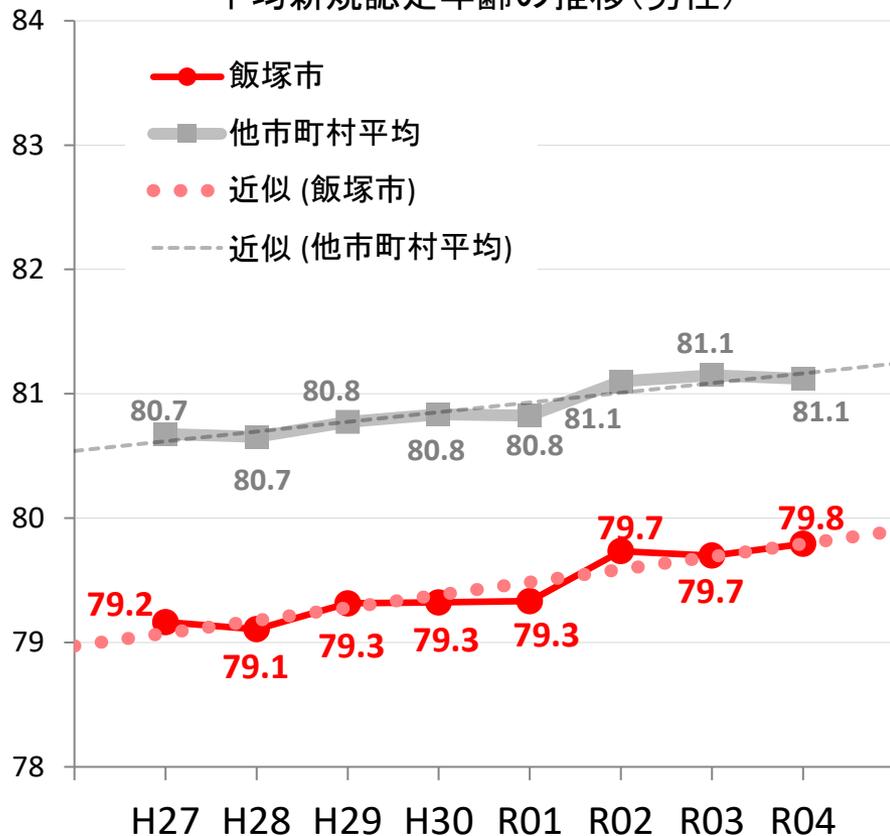
令和5年3月末 要介護認定率



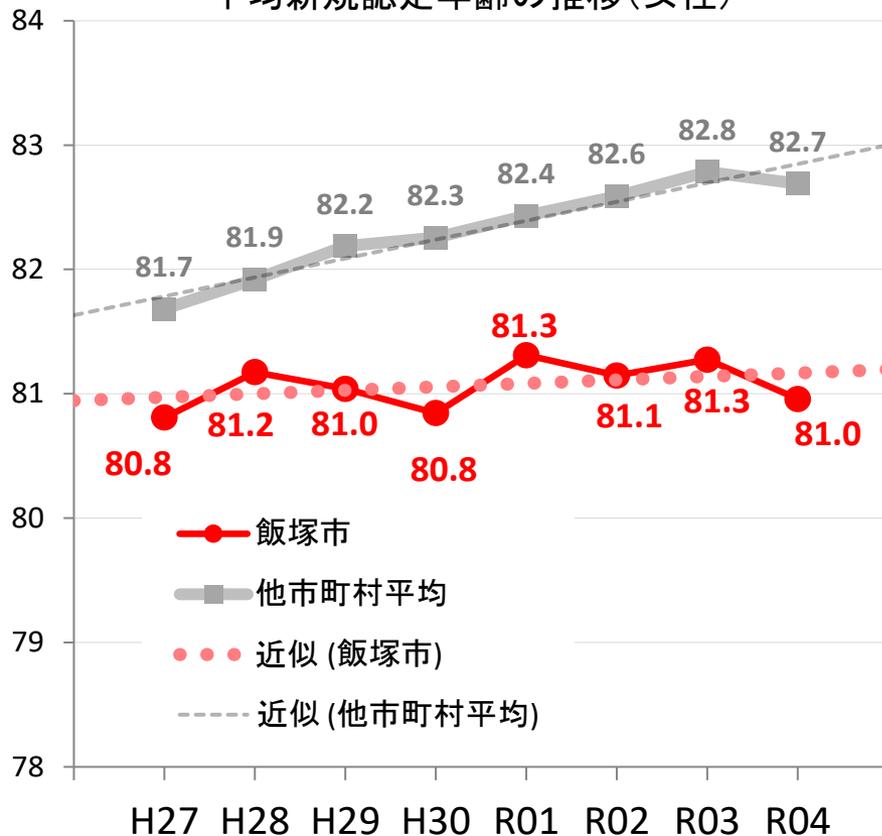
他地域より若いうちから介護認定される飯塚市の高齢者

- ・弊社データベースで比較した平均新規認定年齢をみると、飯塚市では**男性女性ともに他市町村平均を下回る**傾向にある。
- ・これは、飯塚市では、他地域の高齢者よりも若いうちに介護認定を受け始めることを意味している。

平均新規認定年齢の推移(男性)



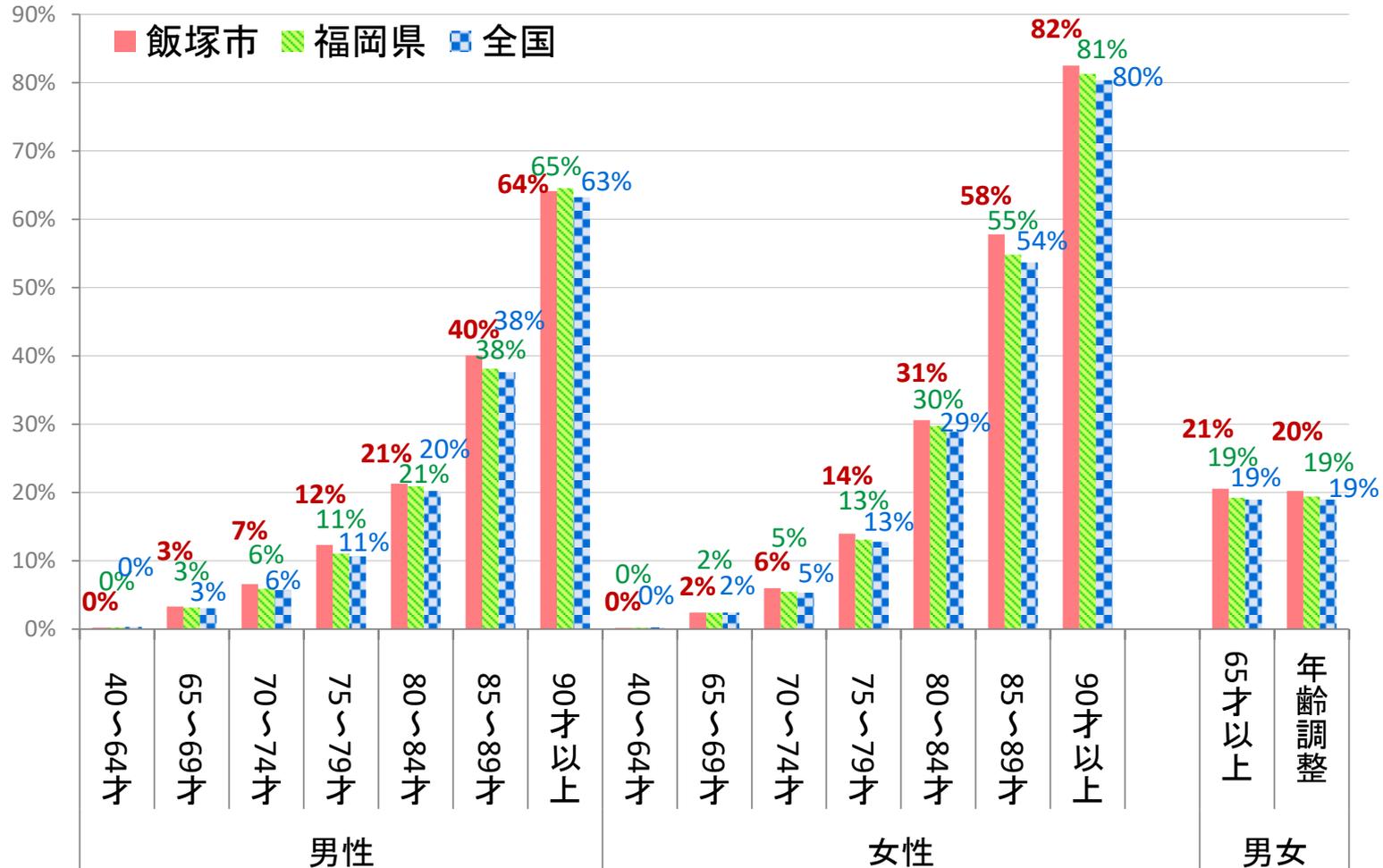
平均新規認定年齢の推移(女性)



性別や年齢に関係なく高い飯塚市の認定率

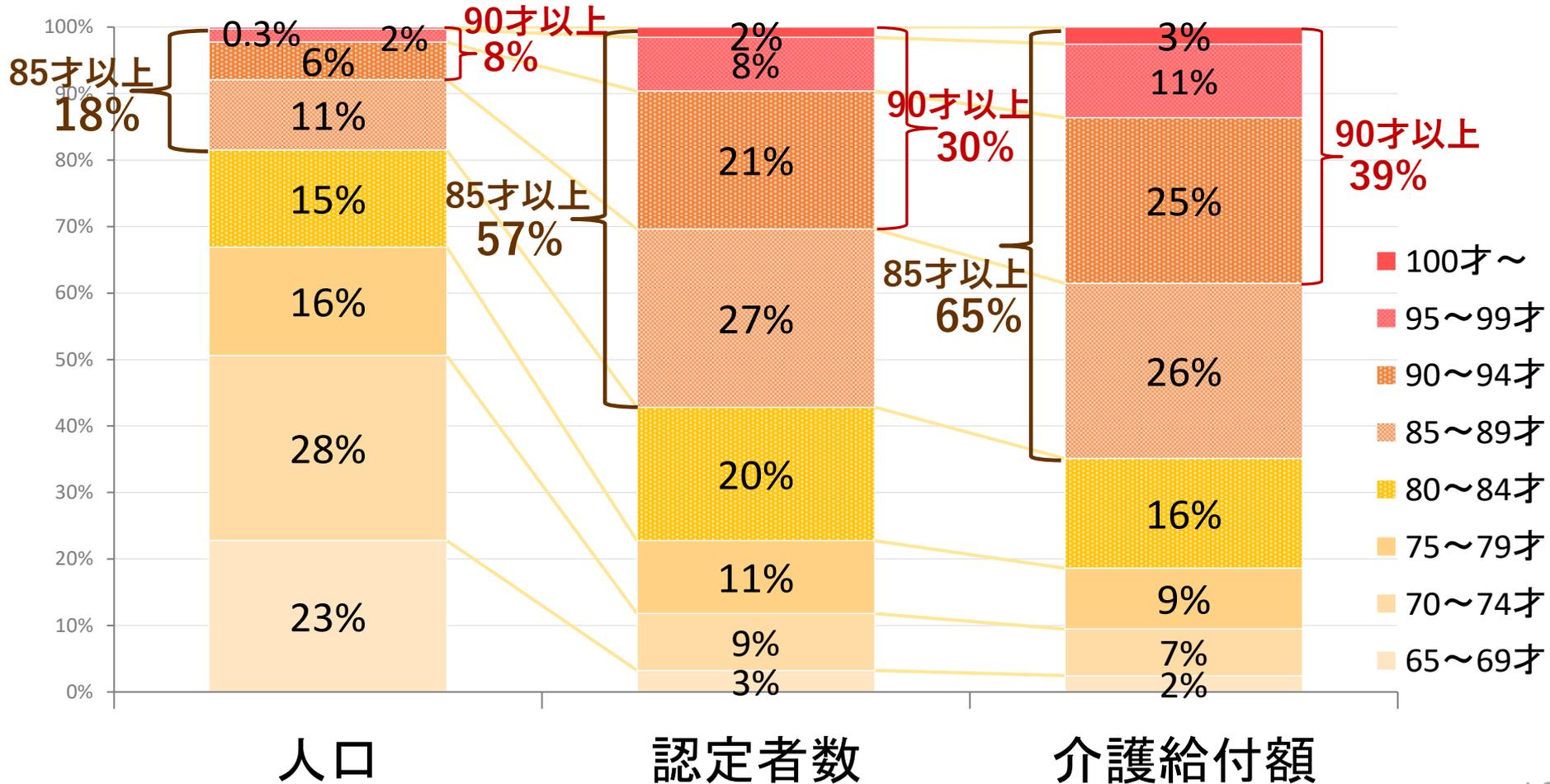
- ・性別年齢階層別に飯塚市の認定率をみると、ほとんどの区分で全国平均や県平均を上回っている。
- ・これは、特定の性別や年齢に課題が偏っているのではなく、男女全年齢にわたって課題が存在していることが示唆される。

飯塚市 年齢階層別 要介護認定率(令和5年3月末)



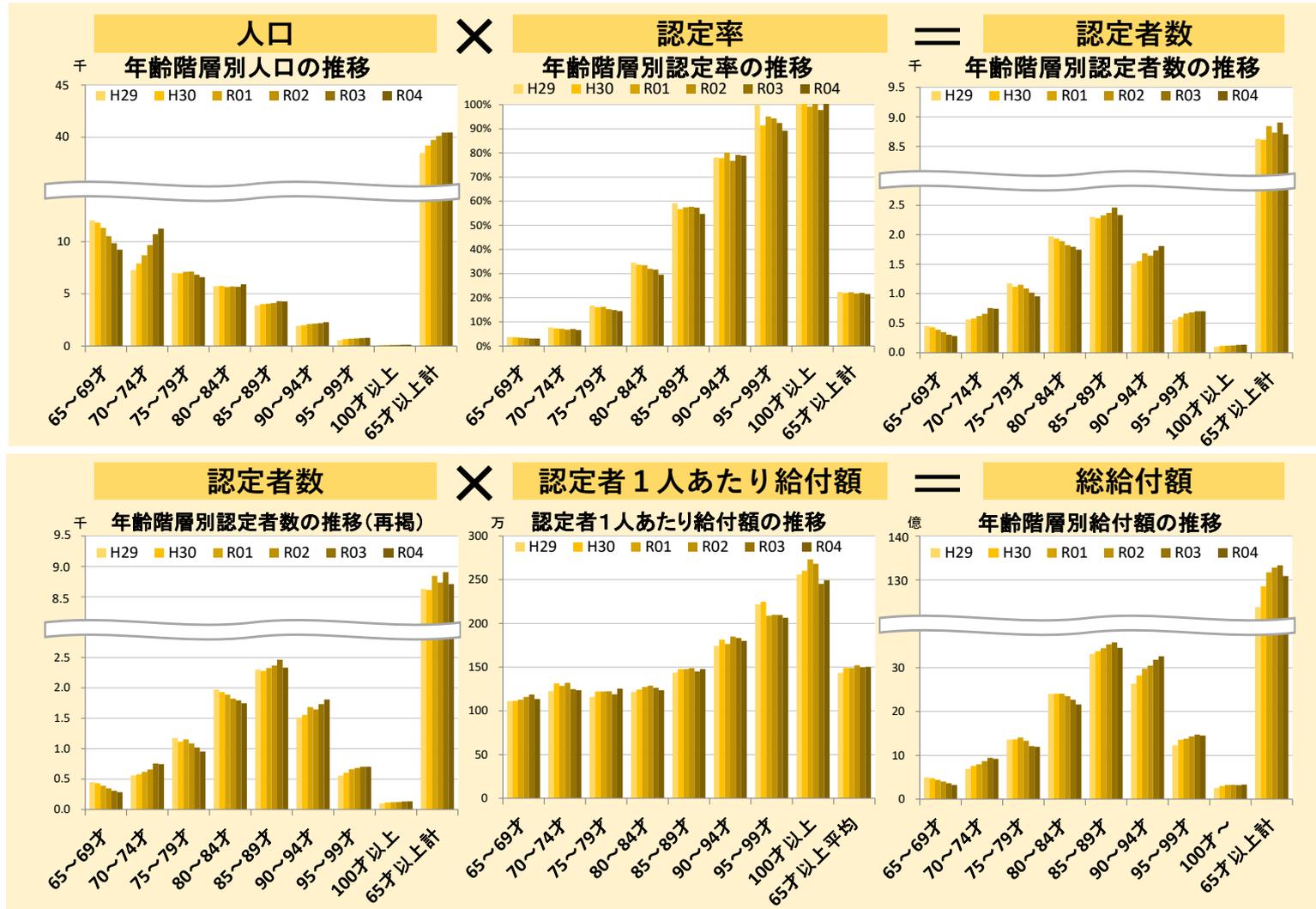
飯塚市の認定者の約6割が85才以上

- ・飯塚市の高齢者人口の18%を占める85才以上の高齢者が、認定者数の57%を占め、介護給付費の65%を占める。
- ・飯塚市の高齢者人口の8%を占める90才以上の高齢者が、認定者の30%を占め、介護給付費の39%を占める。
- ・すなわち、85才や90才を過ぎても、「年齢だから介護度が上がるのは仕方ない」「施設に入るのは仕方ない」ではなく、**年齢に囚われず本人の状態に合わせて、在宅介護の維持や地域での自立した生活を目指していくことが、今後の介護給付費の急増を防ぐ鍵となる。**



人口構造の変化が給付費の増加につながる

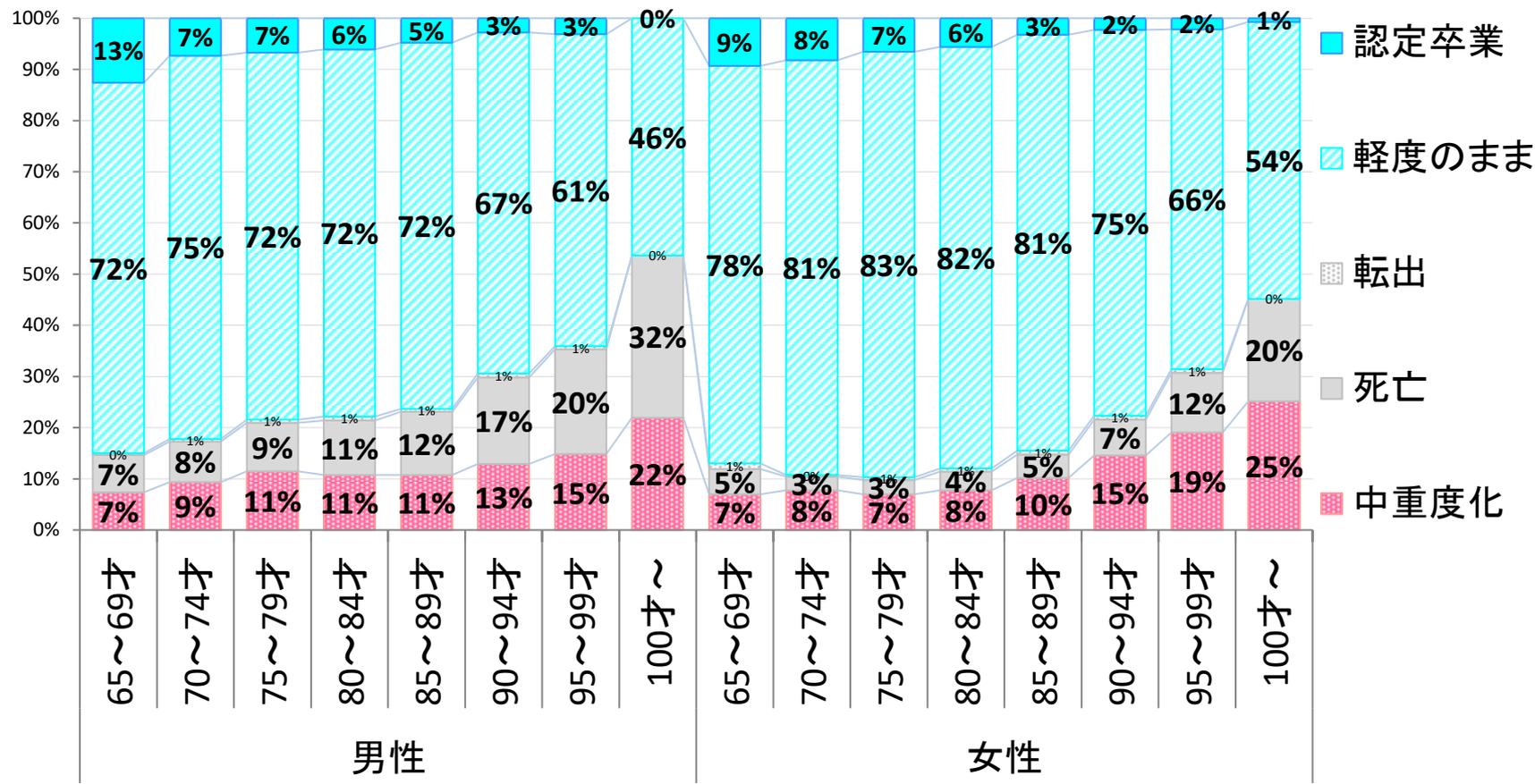
- 飯塚市の認定率は、人口が増加している70～74才、85才以上の年齢階層では認定者数が増加している。特に90才以上では人口微増でも、高い認定率の掛け算で認定者数が大きく増加している。
- さらに認定者1人あたり給付額が90才以上で増加しているため、90才以上の総給付額は、さらに掛け算で大きく増加し、これが飯塚市全体の総給付額の増加に大きく影響している。



介護度の中重度化は、年齢とあまり関係ない

- 軽度認定者（要支援1～要介護2）の1年後の状態変化をみると、中重度（要介護3～5）まで介護度が悪化する割合は、男性では89才まで、女性では84才まで、ほとんど同じであることがわかる。
- 年齢が高くなるごとに認定率や中重度認定率は高くなるが、これは年齢を重ねるごとに、認定者の蓄積が大きいからであり、**1年の間に軽度から中重度になる割合をみると、性別や年齢の違いは小さい。**
- 90才を超えてもなお、軽度から中重度になる認定者よりも、軽度のまま維持する認定者の割合が大きいことを考え併せてみても、**年齢を理由に「重度化は仕方ない」と諦めず、本人の状態に応じたケアマネジメントと重度化予防が必要**と考えられる。

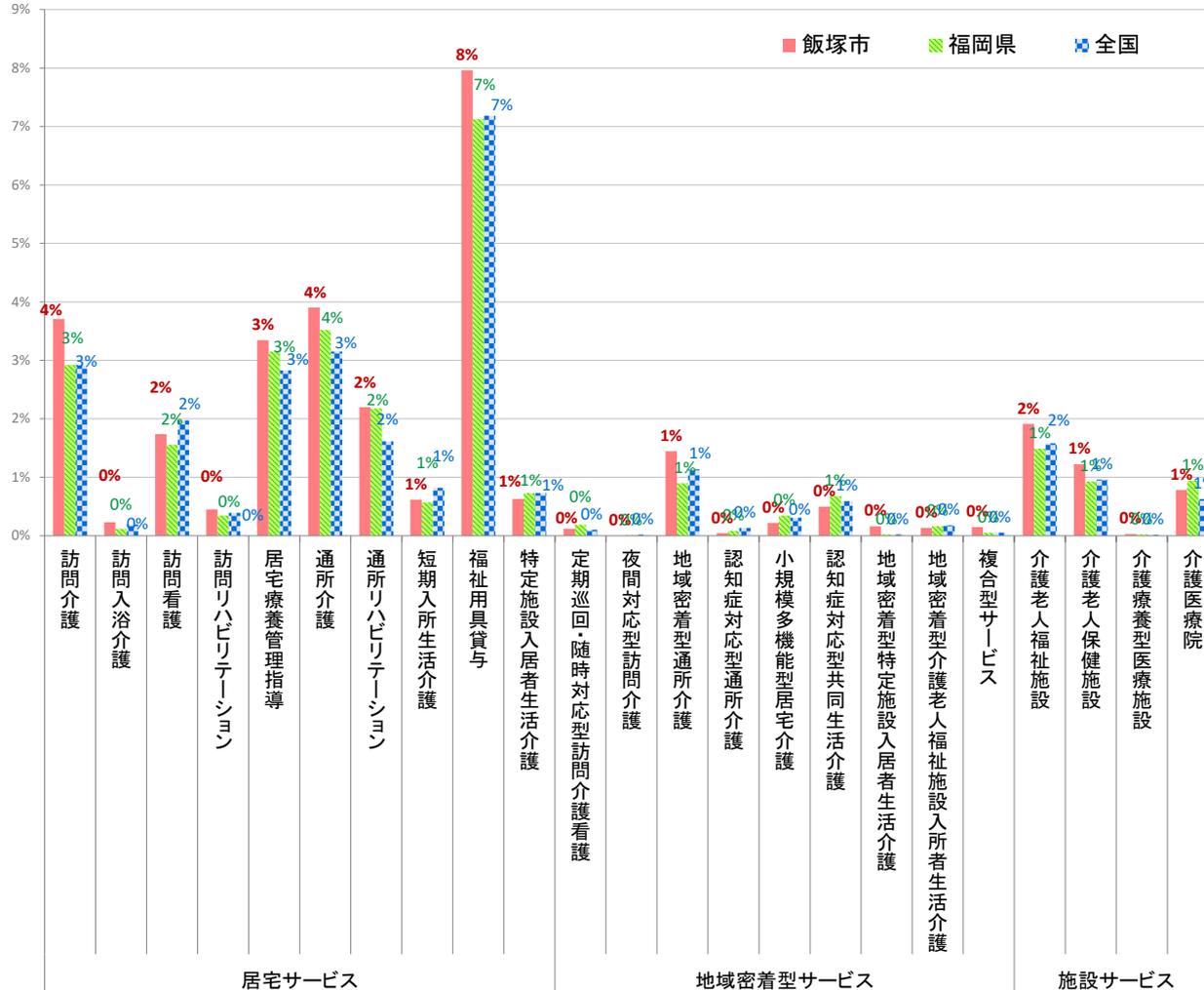
性別 年齢階層別 軽度（要支援1～要介護2）からの状態変化（H29～R04平均）



飯塚市は、介護保険サービスの利用率も高い

- ・飯塚市では、**全般的に介護保険サービスの利用率が高く**、特に介護老人福祉施設（特養）、介護老人保健施設（老健）、通所介護、訪問介護といった**給付額が大きいサービスでの利用率が高い**ことが特徴となっている。
- ・このことは、飯塚市の介護給付費全体を大きく押し上げる要因となっている。

飯塚市 サービス別 利用者率(対被保険者、令和5年3月末)



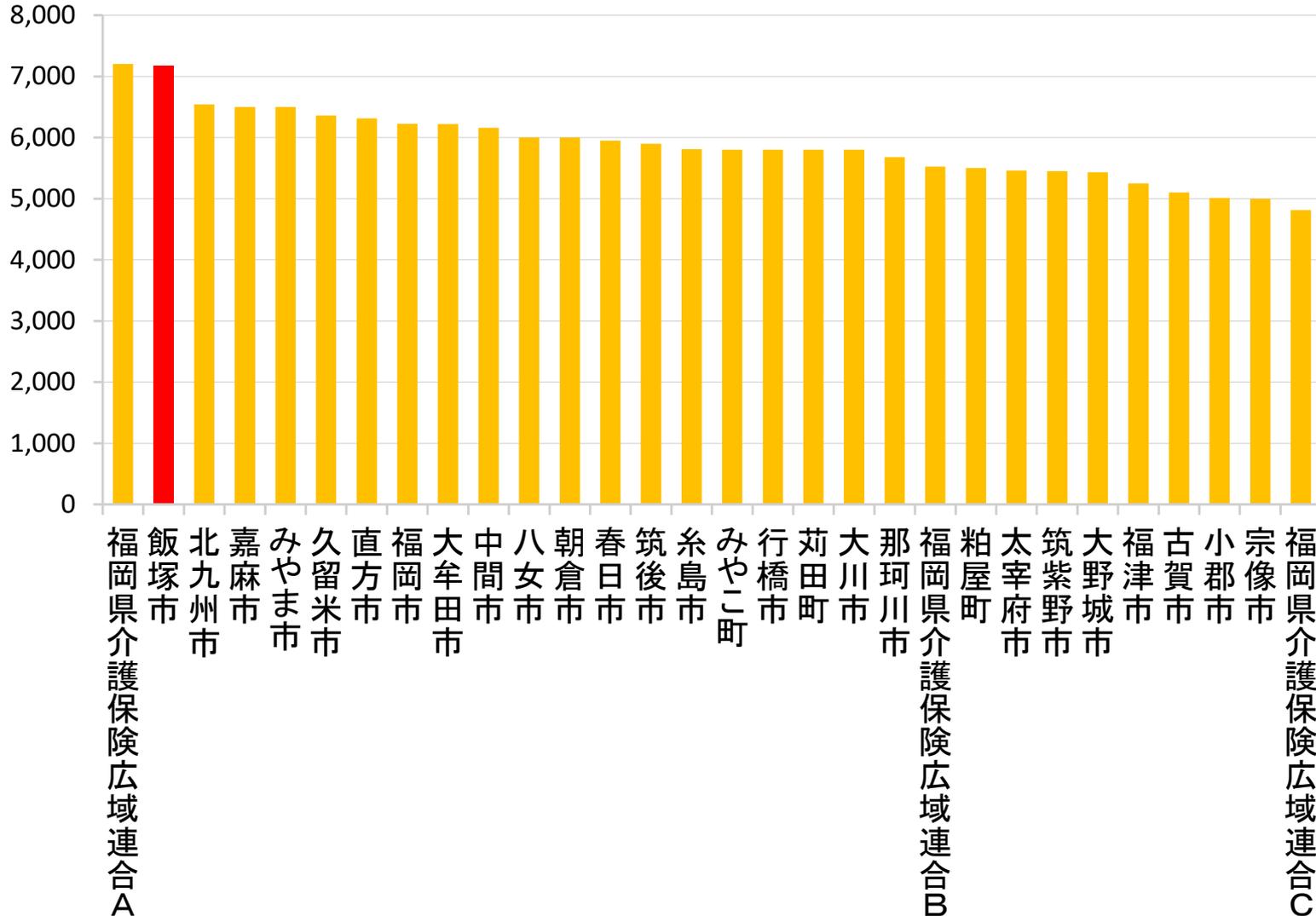
居宅サービス

地域密着型サービス

施設サービス

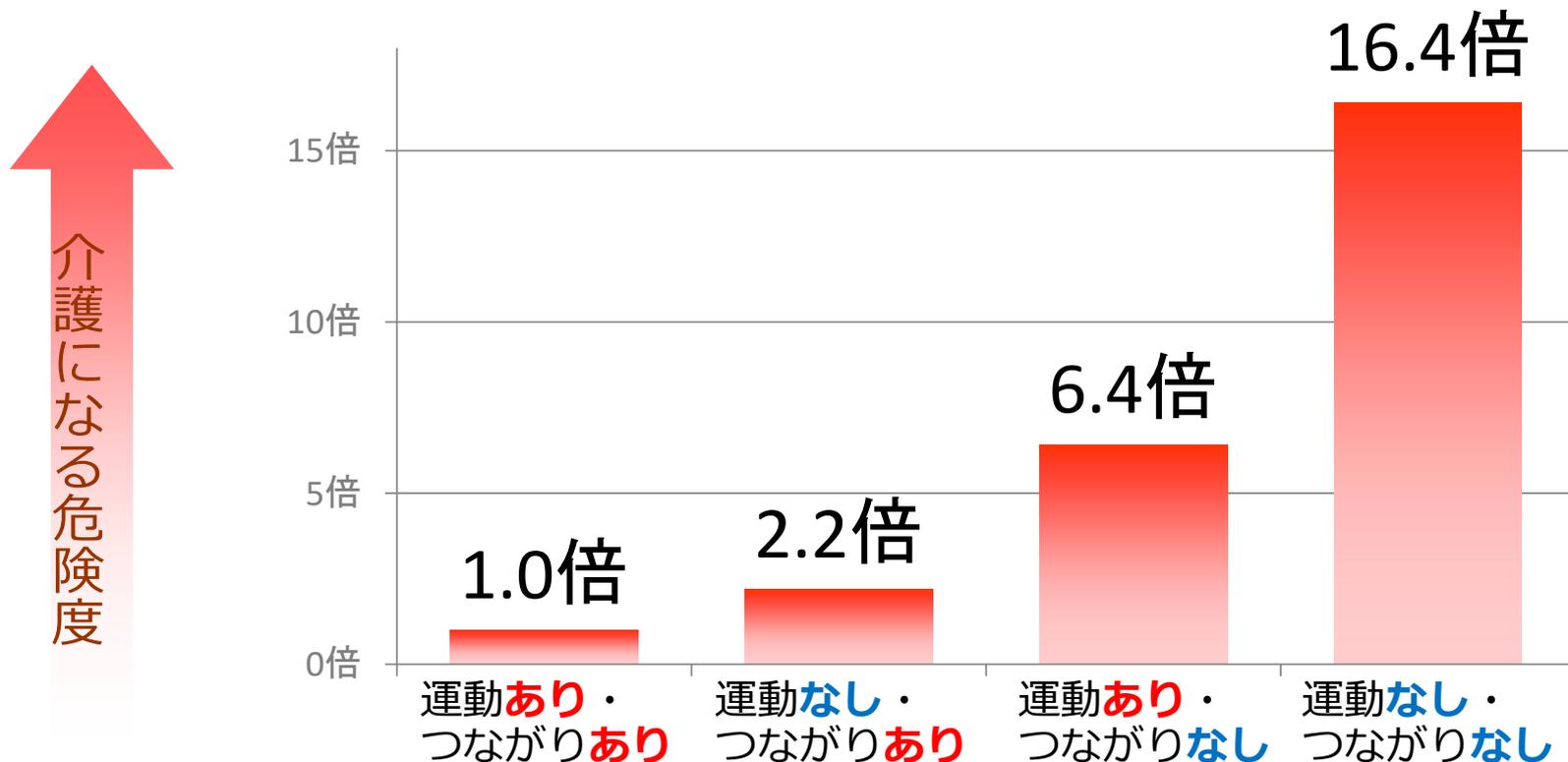
福岡県で2番目に高い介護保険料（第8期）

- ・飯塚市の月額介護保険料（第1号保険料標準月額）は7,170円であり、福岡県介護保険広域連合に次いで、ほとんど差がない**福岡県第2位の高さ**となっている。



人とのつながりが、一番の介護予防

- 最近の研究結果では、**介護予防には「運動」だけでなく、それ以上に「人とのつながり」が重要**であることが明らかになっている。

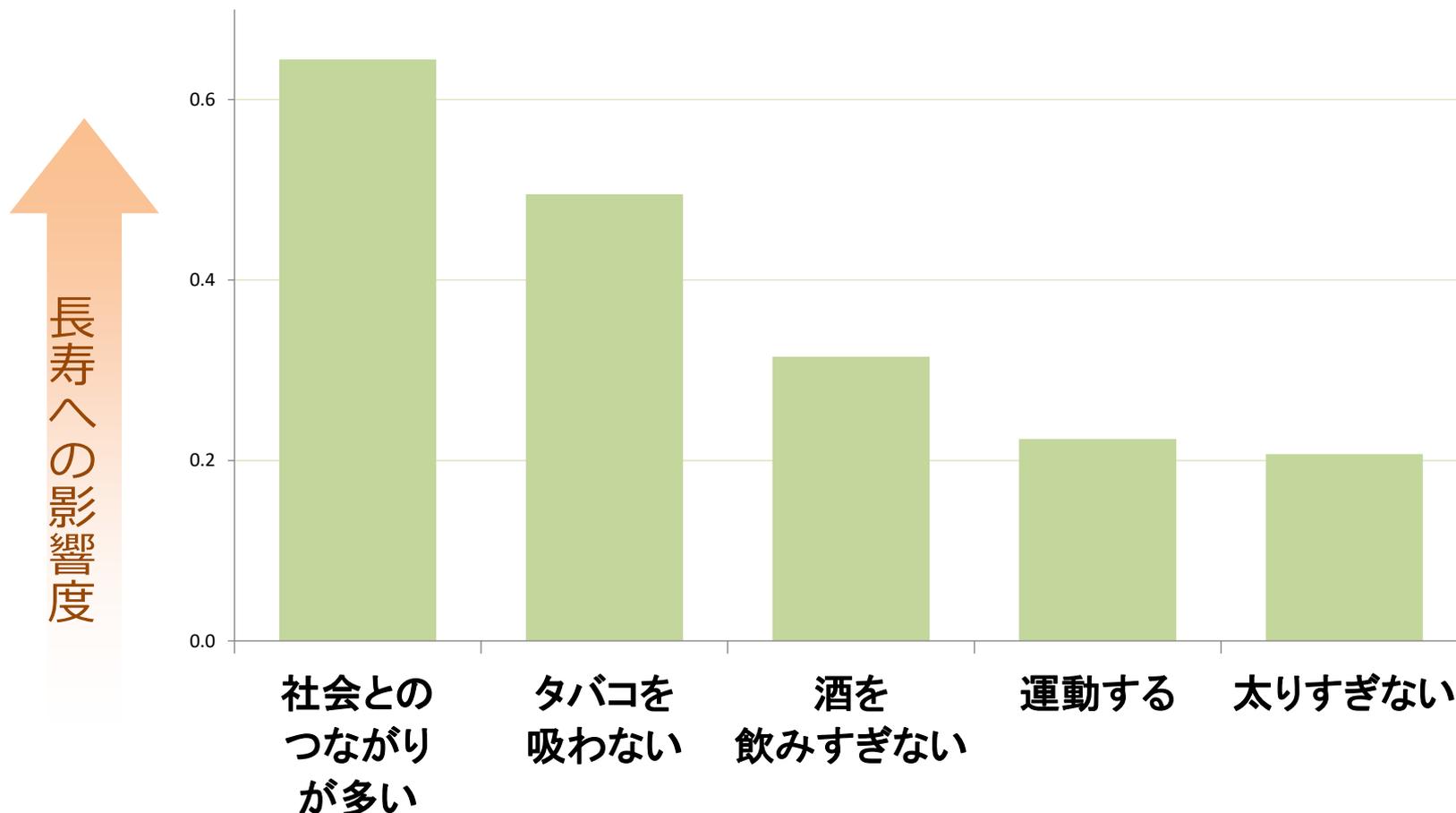


※「つながりあり」とは、何らかの地域活動、文化活動、ボランティアなどの活動をしている状態

東京大学高齢社会総合研究機構 教授 飯島勝矢氏「フレイル予防、高齢者総合的機能評価(CGA)・老年症候群」
日医かかりつけ医機能研修制度平成30年度応用研修会 資料より編集

人とのつながりは、長寿の秘訣!?

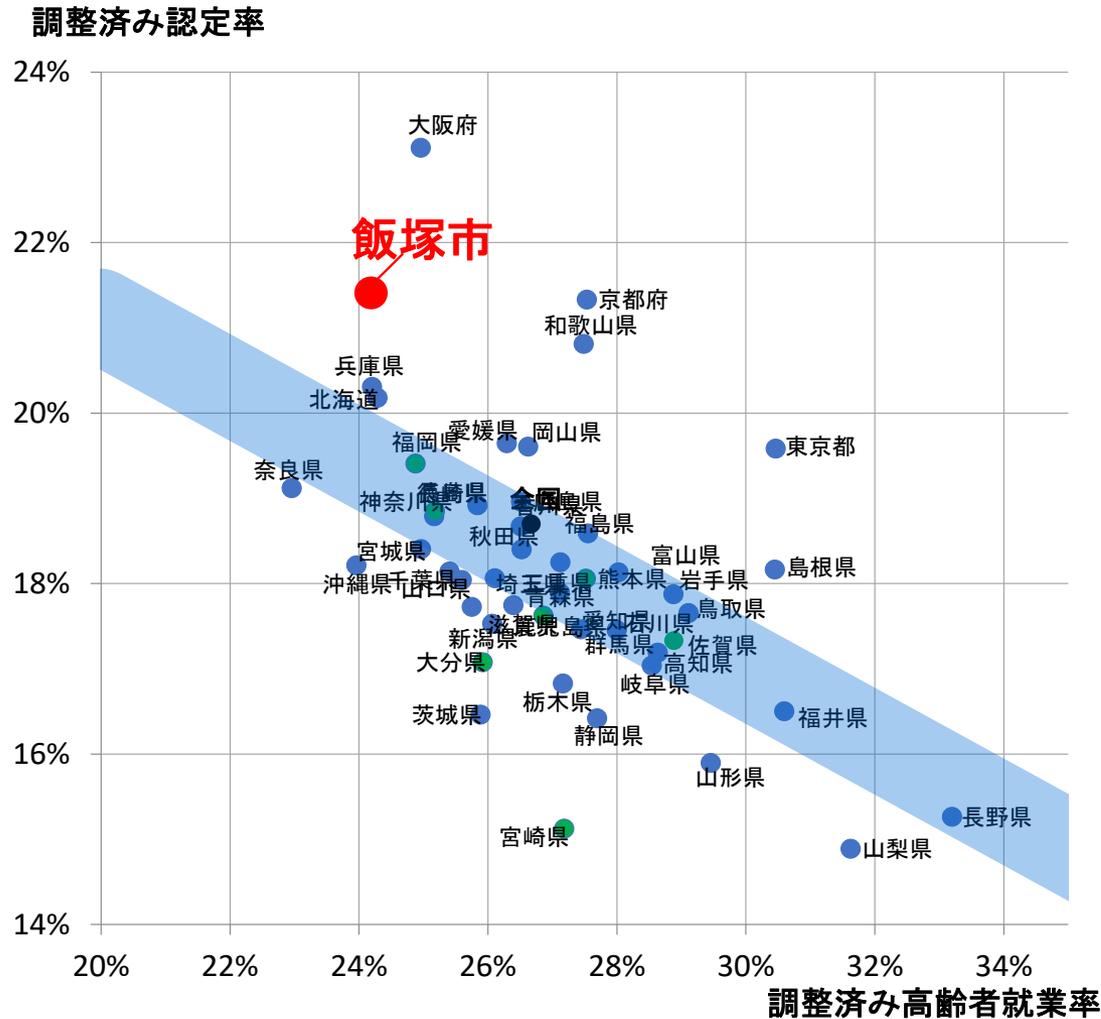
- ・アメリカでの研究では、「運動する」ことよりも「社会とのつながりが多い」ことの方が、長寿につながるということが明らかになっている。



※アメリカ ブリガム・ヤング大学のホルト・ランスタッド教授らの研究による

高齢者就業率が低いと、認定率が高い

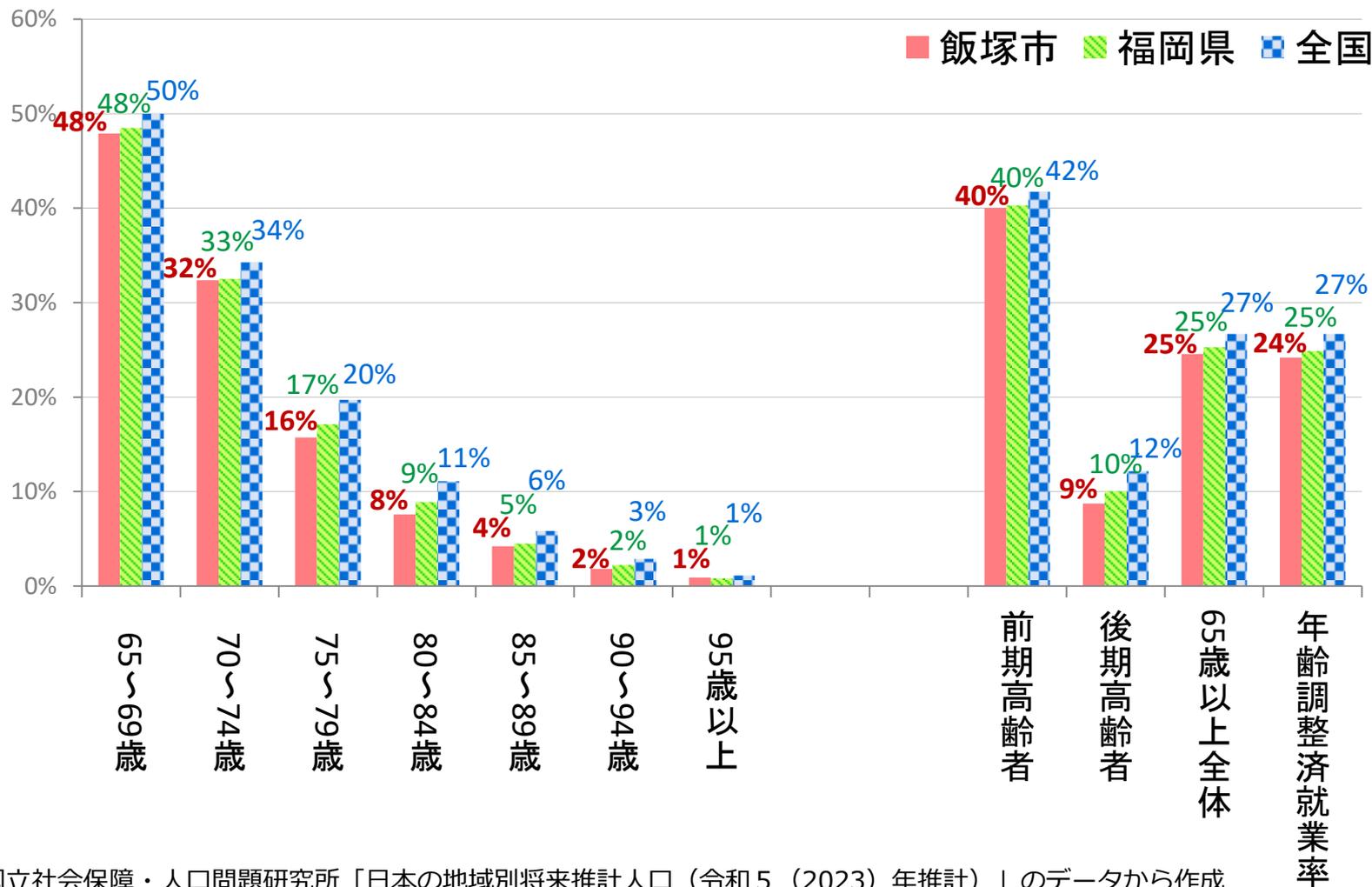
- ・ 高齢者就業率が高いと認定率が低く、逆に**高齢者就業率が低いと認定率が高い傾向**がある。
- ・ 飯塚市は、全国平均より高齢者就業率が低く、認定率が高い状態にある。



飯塚市の高齢者就業率は、ほとんどの年齢階層で低い

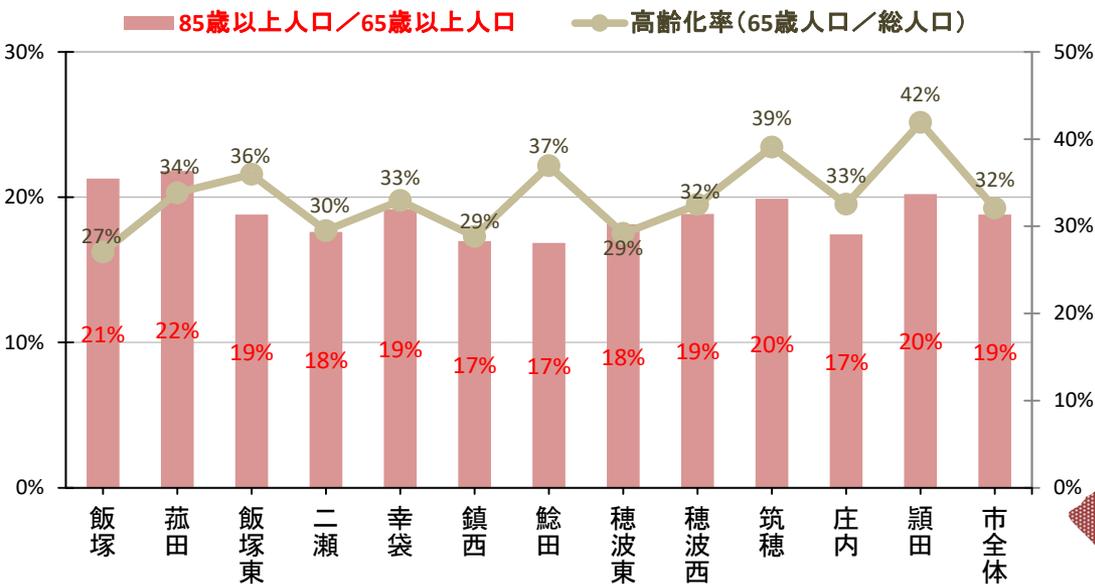
- ・年齢別にみても、飯塚市の高齢者就業率は全国平均や県平均を下回っている。

飯塚市 年齢階層別 高齢者就業率(令和2年)

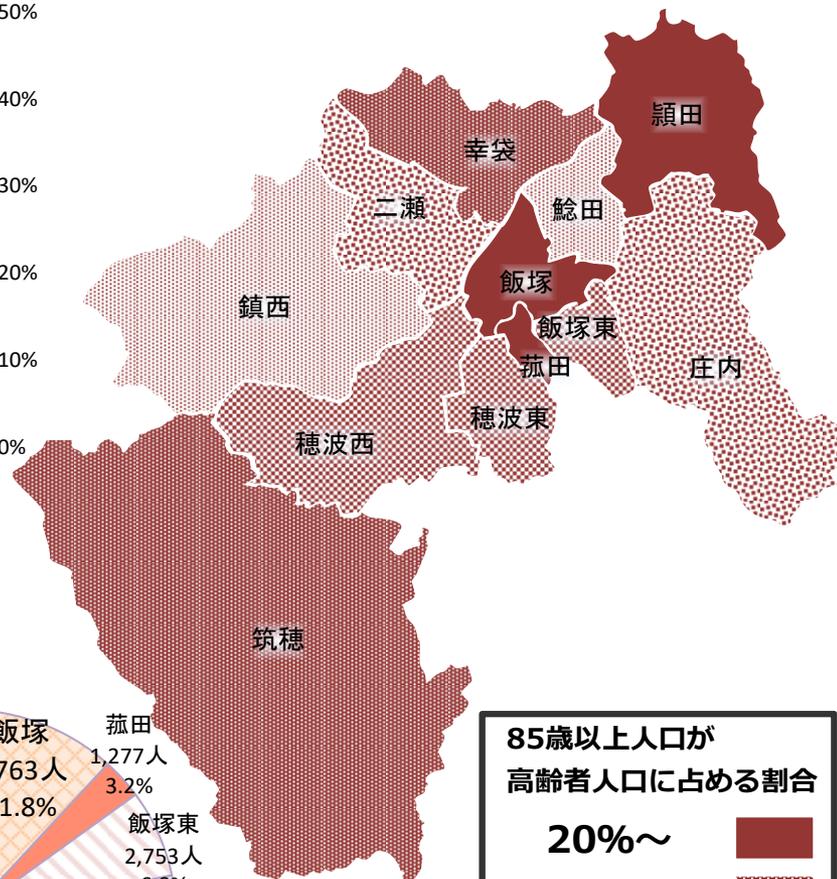


飯塚市内でも、人口構造に大きな違い

各地区の高齢化率と85歳人口の占める割合 (R02~R04平均)



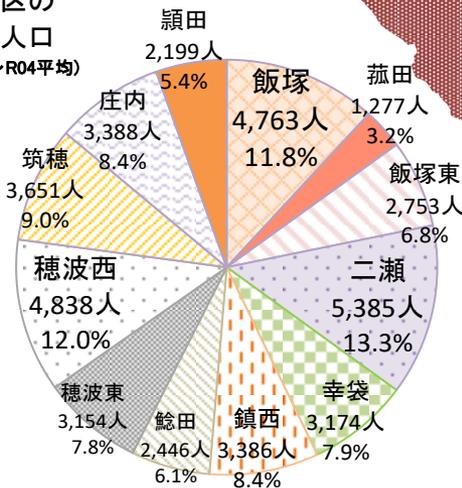
地区



- 85歳以上人口が占める割合が他地域よりも高い地区は、地域活動が不活発になり、高齢者の社会的機会も減少して、閉じこもりや認知機能の低下につながるリスクがより高くなる傾向がある。

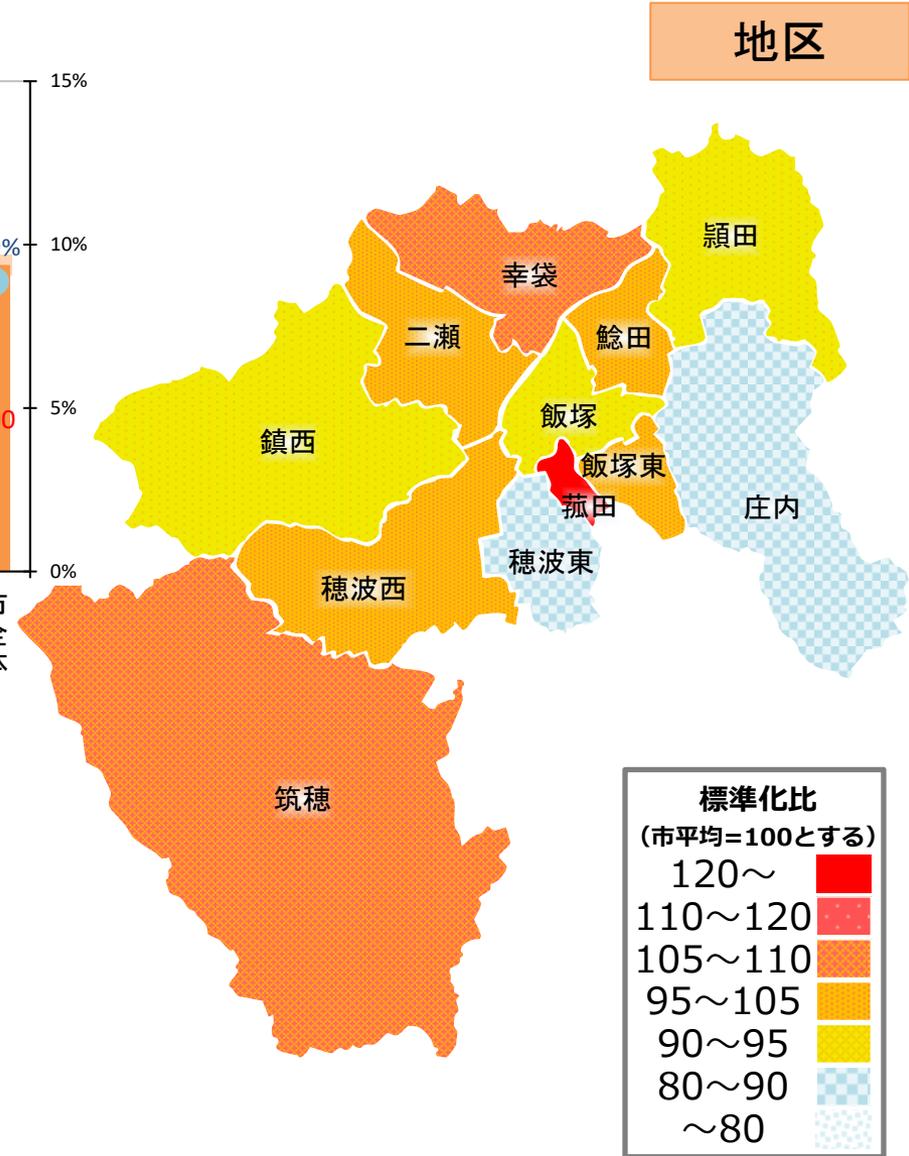
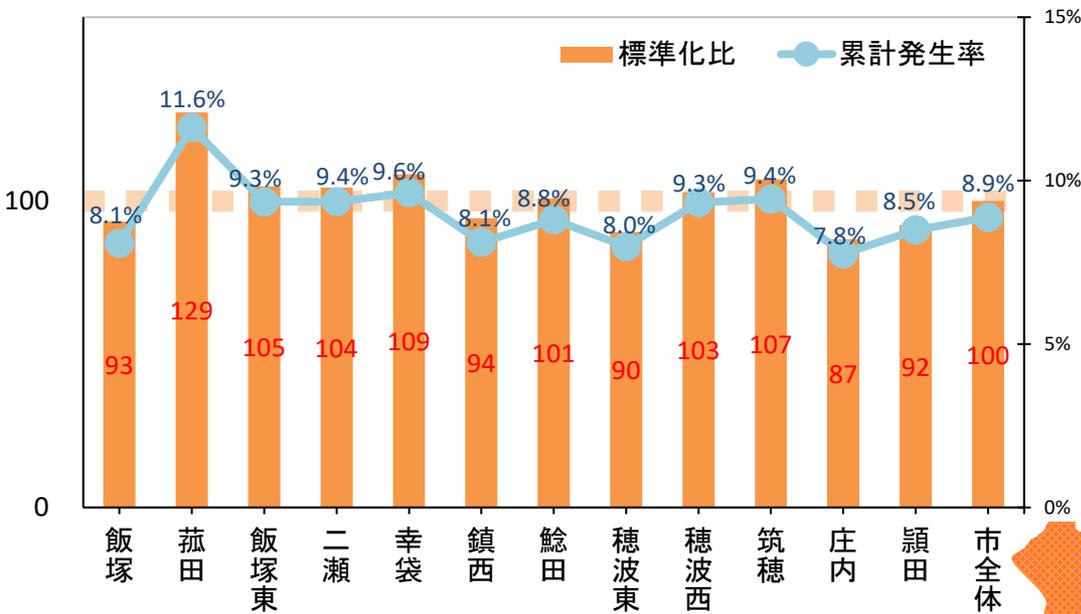
- 飯塚市内では、**菰田**、**飯塚**、**穎田**の地区で、この割合が特に高い。

各地区の65歳人口 (R02~R04平均)



菰田地区が高い新規認定率

標準化新規認定者発生比(65~84歳、R02~R04累計)



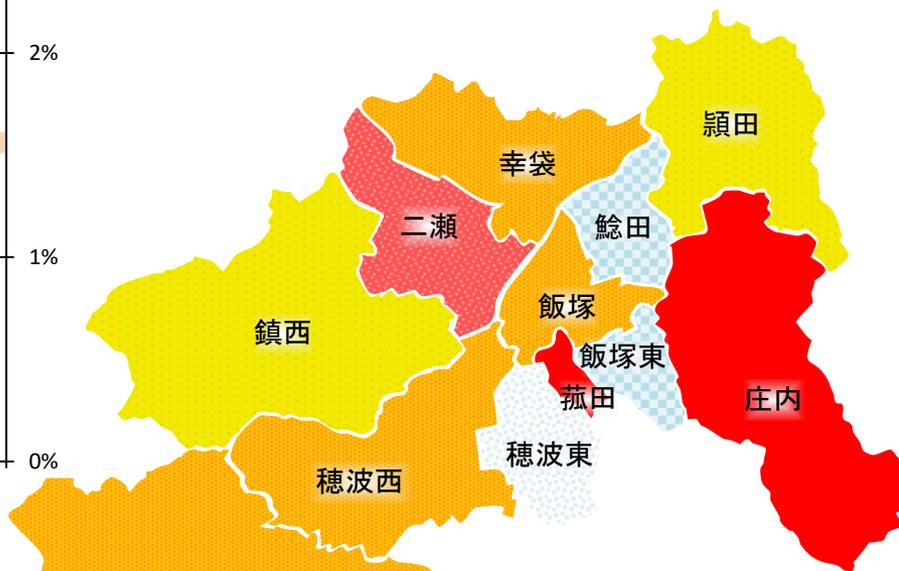
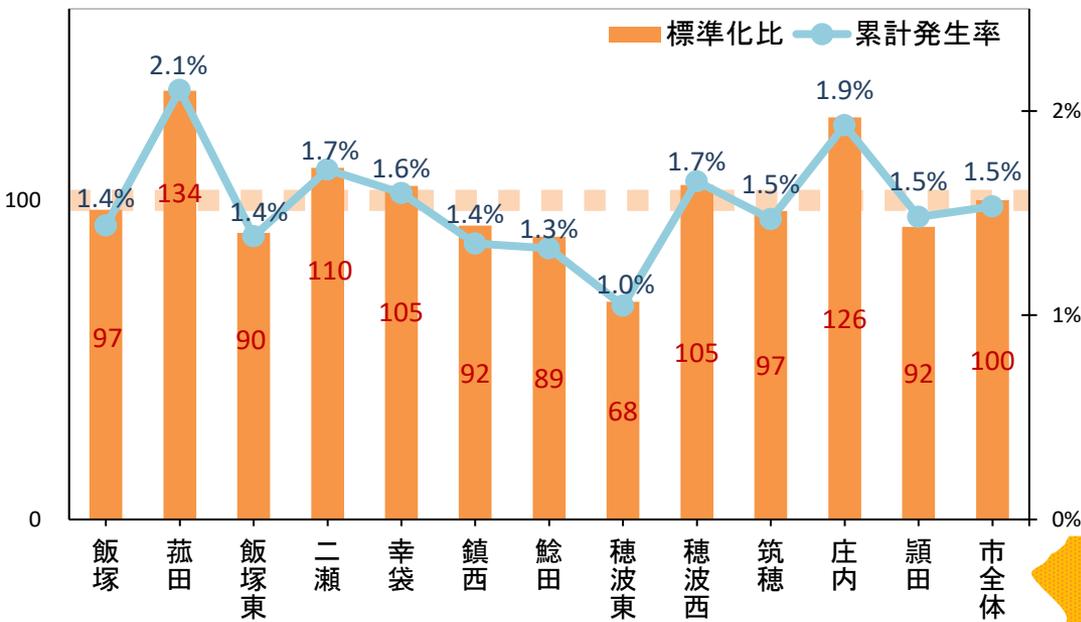
- 年齢調整済み新規認定率では、**菰田が特に高く**、庄内、穂波東が低い。

※標準化比：市全体を100とした場合の各地域の比率

認知症を原因とする新規認定者は、菰田と庄内で多い

標準化 認知症 新規認定者発生比 (65~84歳、R02~R04累計)

地区

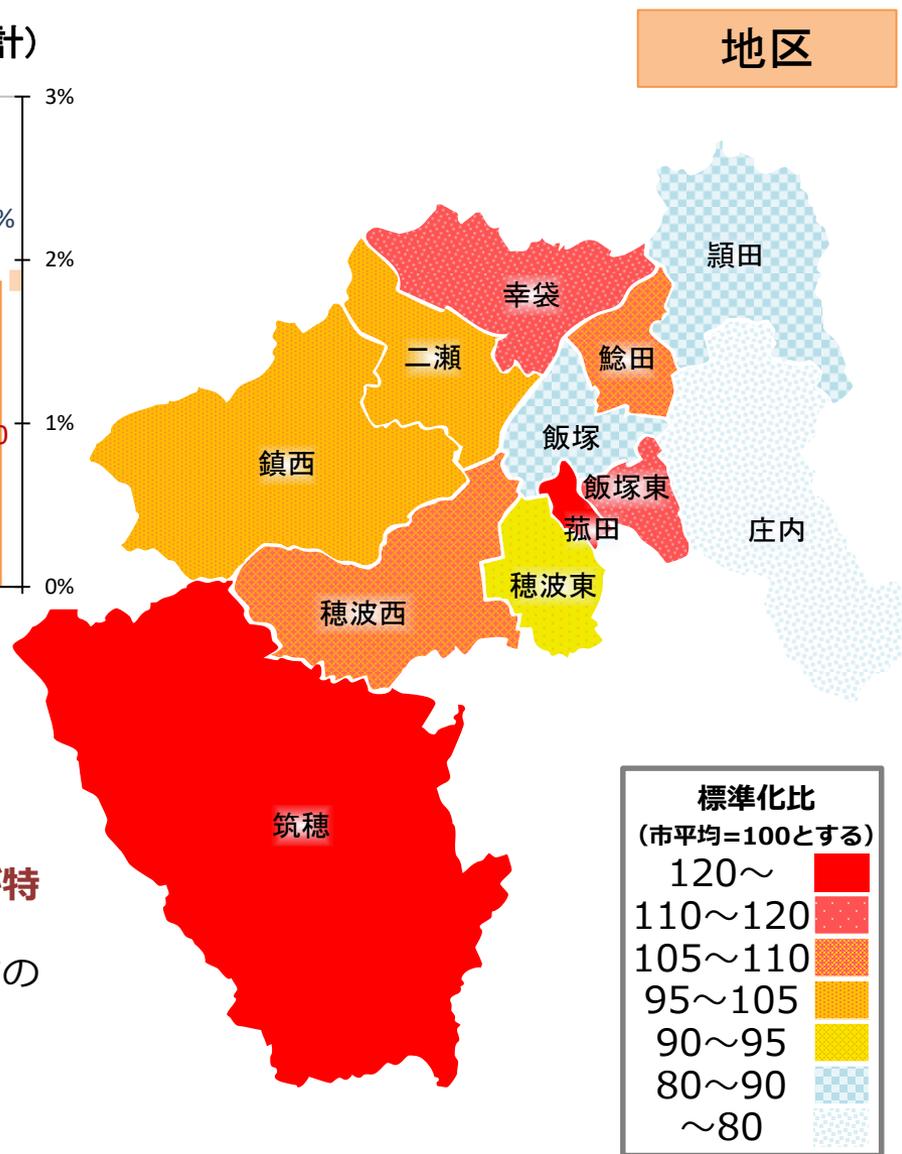
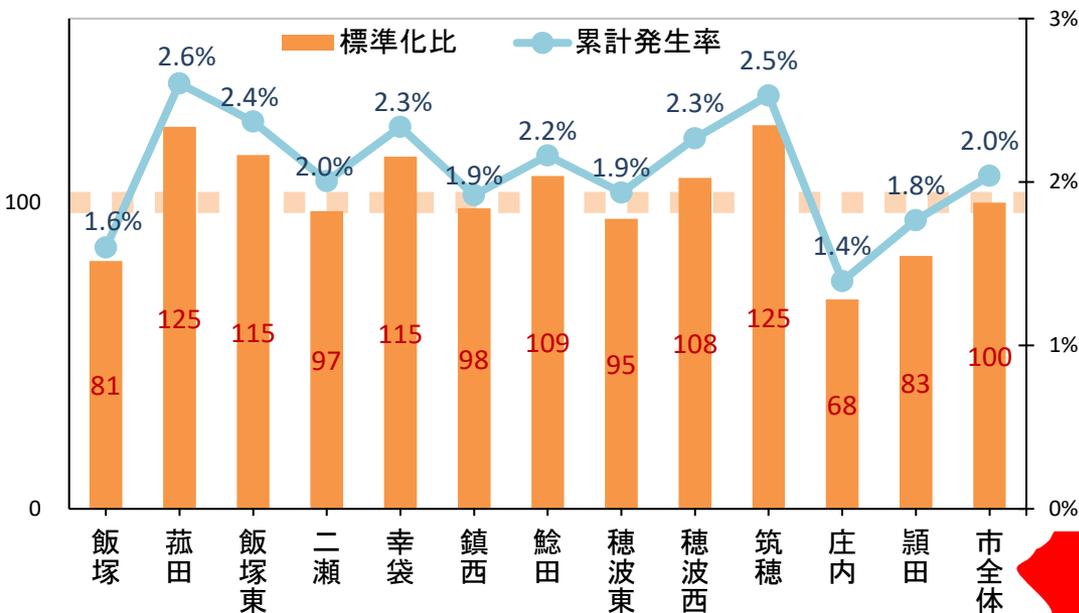


- ・ 認知症の年齢調整済み新規認定率では、**菰田、庄内が特に高く、二瀬も高い**。穂波東は特に低い。
- ・ この発生率が高い地区を、認知症予防の重点地区とすることも考えられる。

※標準化比：市全体を100とした場合の各地域の比率

口コモを原因とする新規認定者は、菰田と筑穂が多い

標準化 口コモ 新規認定者発生比(65~84歳、R02~R04累計)



- 口コモの年齢調整済み新規認定率では、**菰田、筑穂が特に高く、飯塚東、幸袋も高い**。庄内は特に低い。
- この発生率が高い地区では、運動教室などの介護予防の重点地区とすることが考えられる。

※標準化比：市全体を100とした場合の各地域の比率